

# 株式会社アイビーダイワ

## 個人投資家様向け会社説明会

2008年3月24日

説明者:代表取締役社長 高橋 正紀

於:新宿三葉ビル6F会議室

本資料は、会社概要および今後の経営方針に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。本資料に記載された計画や見通しは、特に断りのない限り、現時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証しまたは約束するものではなく、また内容は今後、予告なしに変更されることがありますのでご了承ください。

# アイビーダイワの会社概要

## JASDAQに上場する唯一の資源会社

- 創業日: 1947年9月14日
- JASDAQコード: 3587
- 主な事業: 天然資源・エネルギー事業投資
- 発行済株式総数: 426,400,000<sup>(1)</sup>
- 時価総額: 8,102百万円<sup>(2)</sup>
- 株主数: 14,890名<sup>(1)</sup>

(1) 2007年9月30日時点

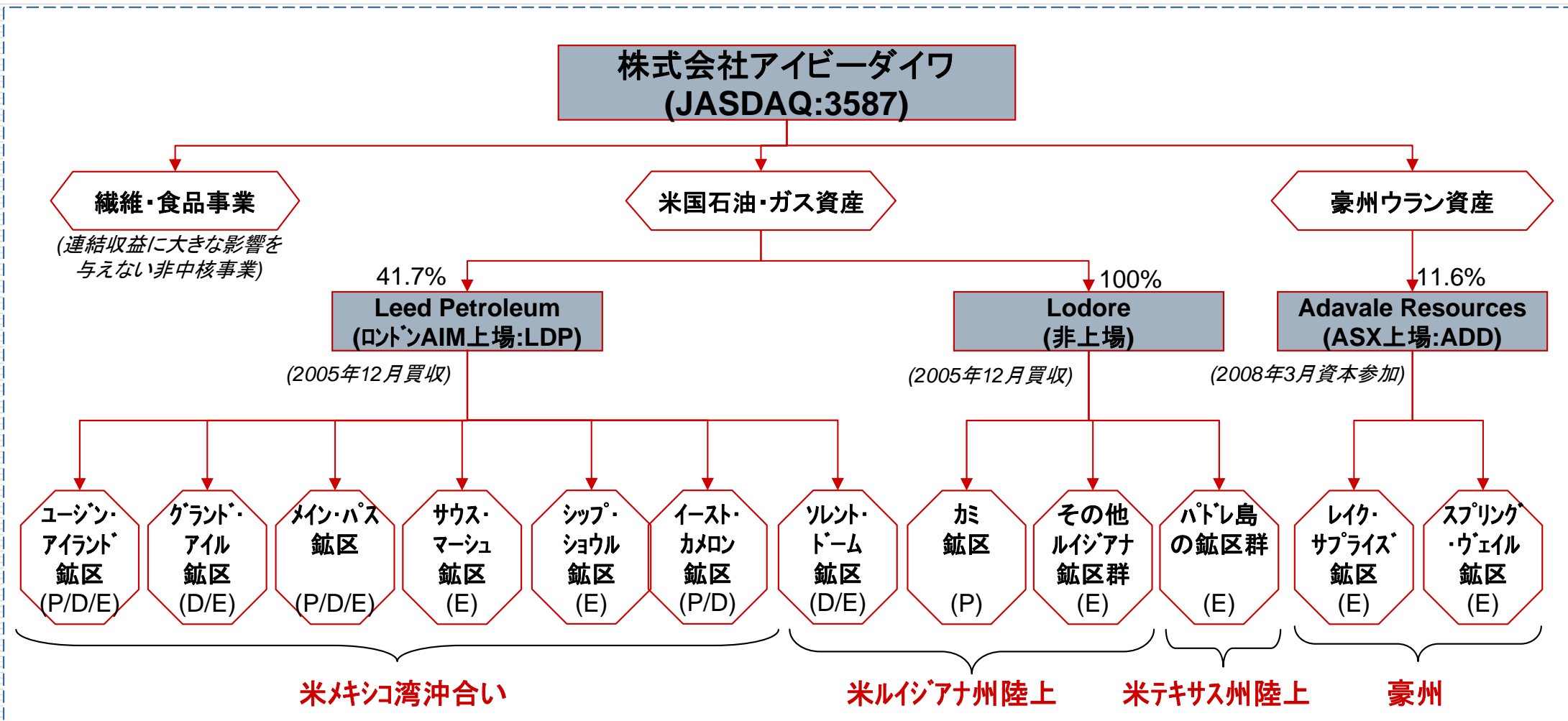
(2) 2008年3月19日終値ベース(1株19円)

# アイビーダイワの沿革

## 2005年に経営体制変更、資源会社に

- 1947年 9月 繊維会社として操業。
- 1963年 6月 東京証券業協会店頭銘柄登録。  
(現在のジャスダック証券取引所)
- 2005年 2月 旧経営陣による情報開示の問題により  
ジャスダック証券取引所の監理ポストに割当。
- 2005年 6月 経営陣の交代。  
資源事業を中核事業にすることを決定。
- 2005年12月 ロドール社、リード社(当時はダーシー社)それぞれの買収・子会社化  
(米国石油・ガス資産)。
- 2006年 5月 ロドール社初の探鉱成功事例である、カミ鉱区生産開始。
- 2007年 8月 リード社上場(ロンドン証券取引所AIM市場)、関連会社化。
- 2007年12月 ジャスダック証券取引所監理ポスト割当解除。
- 2008年 3月 アダヴェイル社に資本参加(豪州ウラン資産)。

# アイビーダイワの資産ポートフォリオ



注: P = 生産資産; D = 開発資産; E = 探鉱資産.

# アイビーダイワの事業

- アイビーダイワ:天然資源・エネルギー分野において、成長の見込める資産に投資を行っています。さらなるポートフォリオ分散と収益確保のため、これからもさらに新規投資の機会を狙っていきます。

  - ロドル社(連結子会社):事業機会の多い米国の石油・ガス業界において、リスクは高いものの、成功した場合には大きなリターンを狙える探鉱事業を主な事業として推進しています。
  - リード社(関連会社):事業機会の多い米国の石油・ガス業界において、上場時に調達した資金を活用し、確実性が高くかつある程度の成長も見込める開発事業を中心として事業を推進し、一方で、一層の成功のため、比較的风险が低いプロジェクトを厳選した探鉱事業にも進出しました。
  - アダヴェイル社(出資先企業):世界有数のウラン産出国であり、今後も産出量の高成長が見込まれるオーストラリアにおいて、ウラン探鉱事業を推進しています。

# アイビダイワの2005年経営体制一新から現在までの成果

## 企業買収と投資

- 2005年12月、当時ロンドン証券取引所AIM市場に上場していたロドール社に対し公開買付を行い、現金を使わず当社の新株を割り当てる現物出资方式で買収、完全子会社化。
- 2005年12月、リード社(当時はダーシー社)を、買収価格57.5百万米ドル(当社が投資した自己資本は10.2百万米ドル)で買収、完全子会社化。
- 2008年3月、オーストラリア証券取引所に上場するウラン探鉱会社、アダヴェイル社に、取得価額4.8百万豪ドル、所有比率11.6%(潜在株式考慮後の比率は約10.3%)で資本参加。

## 探鉱の成功

- 2006年初頭、ロドール社は、米ルイジアナ州陸上部カミ鉱区において、初の探鉱事業に成功。

## リード社の上場

- 当社による買収後、有望な石油・ガス新規鉱区を次々獲得し、埋蔵量の急成長を果たし、企業価値を増大。
- 2007年8月、ロンドン証券取引所AIM市場に晴れて上場。
- 上場時、46百万英ポンドの資金を調達(約93百万米ドル)。
- 上場時の時価総額は118百万英ポンド(約239百万米ドル)。当社のリード社買収のROE(資本収益率)は880%。

## ジャスダック証券取引所監理ポスト割当解除

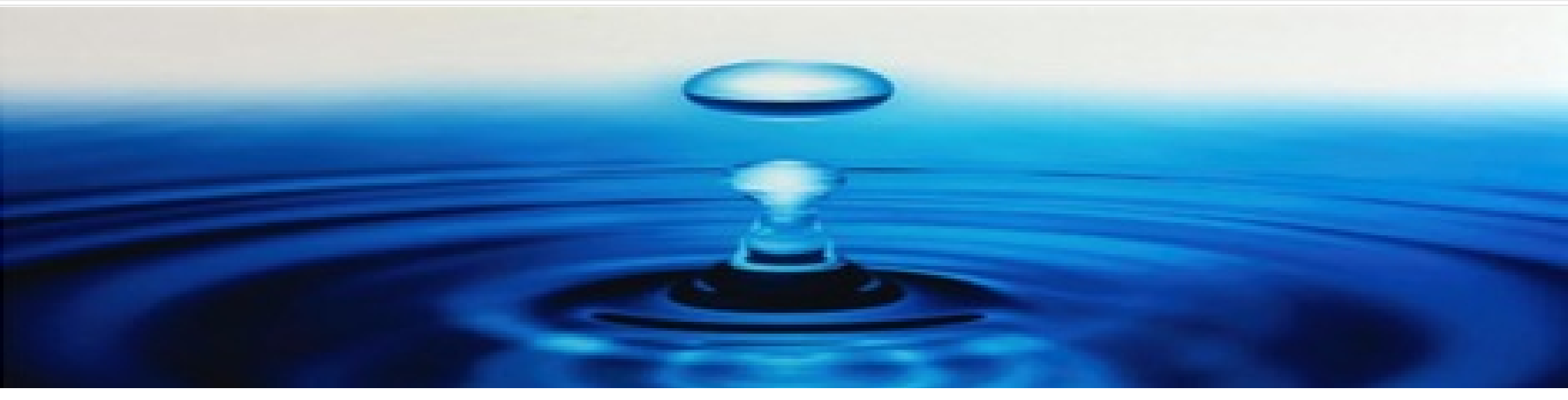
- 当社新経営体制下における内部管理体制・情報開示体制強化の努力が実り、2007年12月、約3年に亘り継続していた監理ポスト割当からついに解除を果たす。

# 各社の概要





Lodore US Holdings, Inc.



## ロボール社の事業戦略および課題

- ハイリスク・ハイリターンの探鉱に挑戦し、急成長を狙う
- ファームアウト、ファームインという、業界特有の権益売買の手法を駆使し、探鉱資産ポートフォリオを形成し、状況に応じて適宜変化させていく
- 通常の販管費はカミ鉱区の生産からキャッシュで確保し、オペレーションを行う

### 課題

- 着手したが結果が出ていない探鉱計画を終了させる努力を継続
- 新たな探鉱計画を推進するために資金調達が不可欠
- ハイリスク(一般的に成功確率が低く、かつ、高コスト、長いリードタイム)深層部探鉱にフォーカスするという戦略の見直しの必要性につき検討中

# ロドール社の各鉱区の現状



- カミ鉱区: 2006年5月に生産開始。ロドール社の通常の操業に必要なキャッシュを生み出しているが、水処理問題の発生により生産量は現状低めとなっている。
- エンデバーAMI鉱区: 垂直深度19,003フィート地点で、以深の掘削を行うのに必要な保険の確保ができていないために、探鉱中断中。探鉱再開の目処は現状立っていない。
- プラム・ディープ鉱区: 最浅部の一層の商業性検査が未着手。オペレーターの発表によると、来期前半となる見通し。
- ビッグマウス・バヨウ鉱区: ガスを発見したCR砂岩層の生産化に向けた第2号井の掘削のため、ファームアウトの交渉中。
- ノースウエスト・カプラン鉱区: 近日中にも掘削が開始される見込み。ロドール社探鉱戦略との整合性および資金の確保状況によって、参加方針を決定。
- マンザノ鉱区深層部探鉱: 今年10月以降の開始を予定。ロドール社探鉱戦略との整合性および資金の確保状況によって、参加方針を決定。



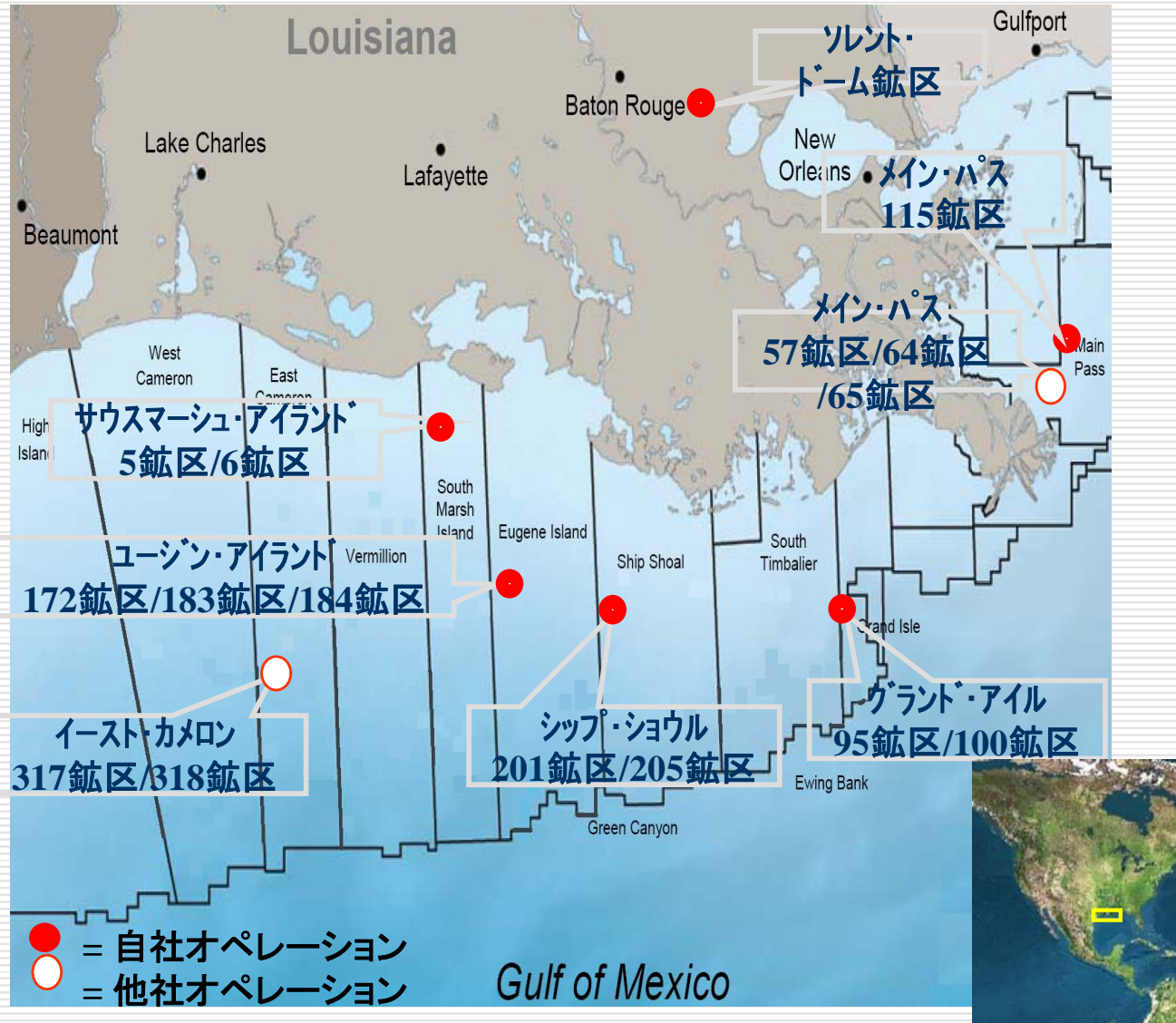
Leed Petroleum PLC



# リード社の事業戦略

- 自社オペレーション
  - 開発計画等のオペレーションを自社でコントロール
- 米メキシコ湾沖合いにフォーカス
  - 現経営チームの地の利
  - 豊富な事業機会
- 開発を中心としつつ、生産・開発・探鉱のすべてのサイクルに参加
- 有望な新規鉱区獲得の継続による成長
  - 資源メジャーや独立系大手企業が保有し、放置している有望な資産を安価に入手し、埋もれている価値を引き出す
  - 中部メキシコ政府によるリース競売への参加により、効率的に新規鉱区を獲得
- 最新の技術を駆使した高い分析力

# リード社の保有鉱区



## ■ メキシコ湾沖合いに10の自社操業鉱区

□ うち、ユージン・アイランド 183/184鉱区において、現在開発・探鉱計画進行中。当初の予想より多い埋蔵量が発見される見通し。

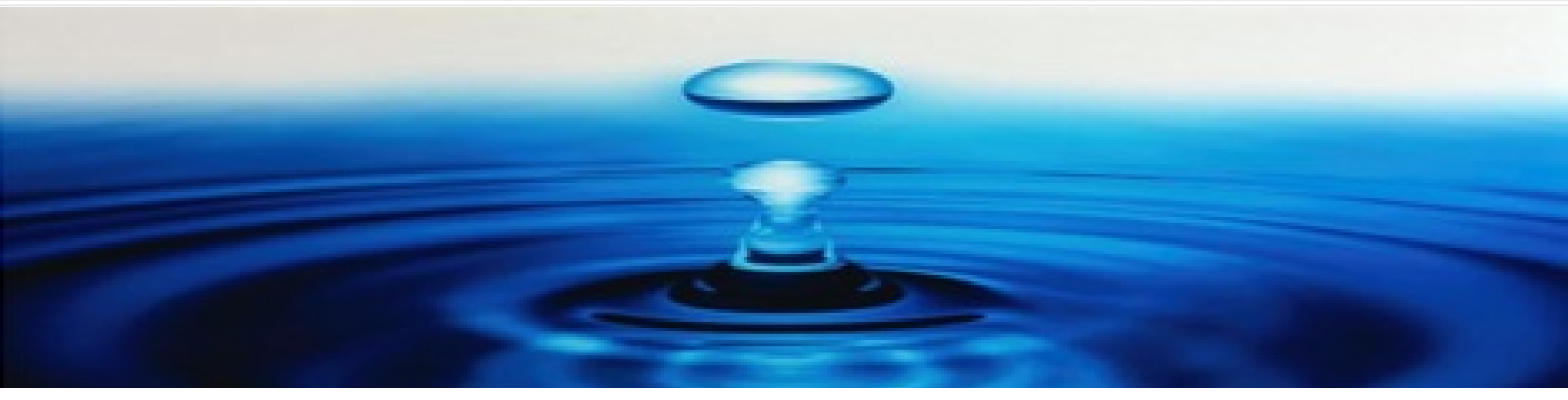
## ■ 陸上部に1の自社操業鉱区

## ■ このほか、メキシコ湾沖合いに、5の他社操業鉱区

## ■ 継続して新規鉱区を獲得



Adavale Resources Limited



## アダヴェイル社に対する戦略的投資の概要

- 投資実行日            2008年3月7日\*
- 投資金額              4.8百万豪ドル(約465百万円)
- 持株比率              11.6%(潜在株式考慮後の比率:10.3%)  
当社は現在、同社の筆頭株主
- 役員の兼務            非常勤取締役 1名(当社 代表取締役社長 高橋 正紀)
- 投資の目的            当社資産ポートフォリオの分散。  
エネルギーとしてのウランの将来の成長可能性の恩恵を享受。  
同社ウラン探鉱成功の場合の株式価値の増大によるリターン。  
将来のウラン事業進出への足掛かり。
- 会計上の扱い        投資金額を簿価として資産計上。時価会計ではない。  
当社連結損益には同社業績は取り込まれない。  
当社連結損益への主な影響は、当社による株式売却、  
同社の増資等による当社持分(純資産額)変動、配当等がある場合。

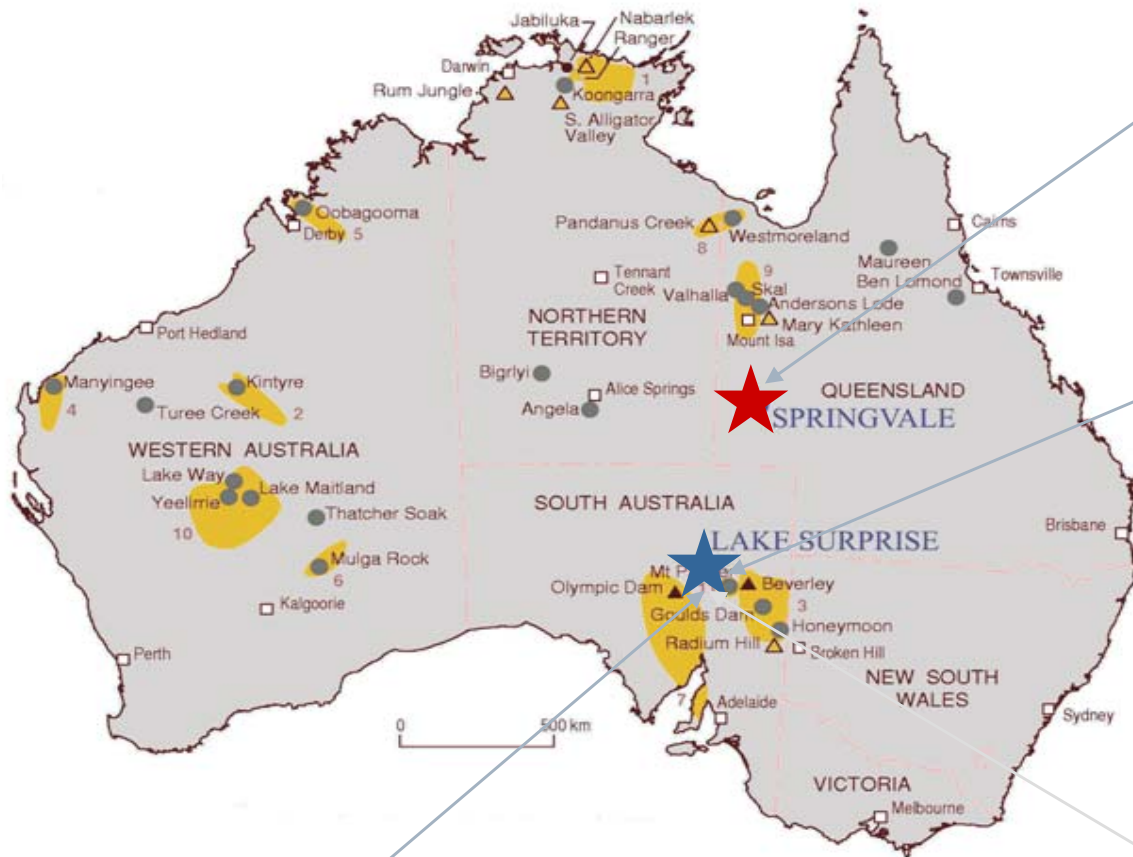
\* ただし、一部の株式(既存株式の譲受分)の取得日は2008年3月19日

## アダヴェイル社の投資対象としての魅力

- **魅力的なロケーション** – レイク・サプライズ鉱区は、ウランが世界でも有数の豊富な地域に位置しており、また、世界最大のオリンピック・ダム鉱床を含む複数のウラン採掘現場を擁す鉱山、ビバリー・ウラン鉱山と隣接した地域に位置している。
- **優秀で経験豊富な経営陣・技術陣** – 同社の業界で30年以上の経験を有するメンバーで構成される経営陣と技術陣
- **企業価値の大きな飛躍の可能性** – 当社が、他の同業他社との比較分析を行った結果によると、仮に当社が探鉱成功の場合、同社の株式価値が当社の取得価額と比して飛躍的に増大する可能性がある。
- **比較的低リスクな探鉱** – 浅層部探鉱を行っているために、比較的探鉱資金は低コスト。また、第一段階の評価で、浅層部において放射能がすでに広範囲で検出されており、成功の期待がかかる。
- **リードタイムが比較的短期間** – 浅層部探鉱であり、同社は自社の掘削設備を保有しているため、最終評価結果の判明はそれほど遠くない将来に得られることが予想され、仮に商業生産可能なウランを発見した場合、生産化までのリードタイムも比較的短期間で終了することが期待されている。

# アダヴェイル社の保有鉱区

- PROJECT AREA
  - Deposit or Prospect
  - ▲ Current Producer
  - ▲ Former Producer
  - Areas of Uranium Exploration in Recent Years
- 1 Arnhem Land
  - 2 Paterson Province
  - 3 Frome Embayment
  - 4 Carnarvon Basin
  - 5 Canning Basin
  - 6 Gunbarrel Basin
  - 7 Gawler Craton-Stuart Shelf
  - 8 Westmoreland Area
  - 9 Mount Isa Inlier
  - 10 Tertiary Palaeochannels
  - 11 Mt Gee Area



スプリング・ヴェイル鉱区

レイク・サプライズ鉱区  
クレイトンベイシン・プロジェクト

レイク・サプライズ鉱区  
フィニス・スプリングス・プロジェクト

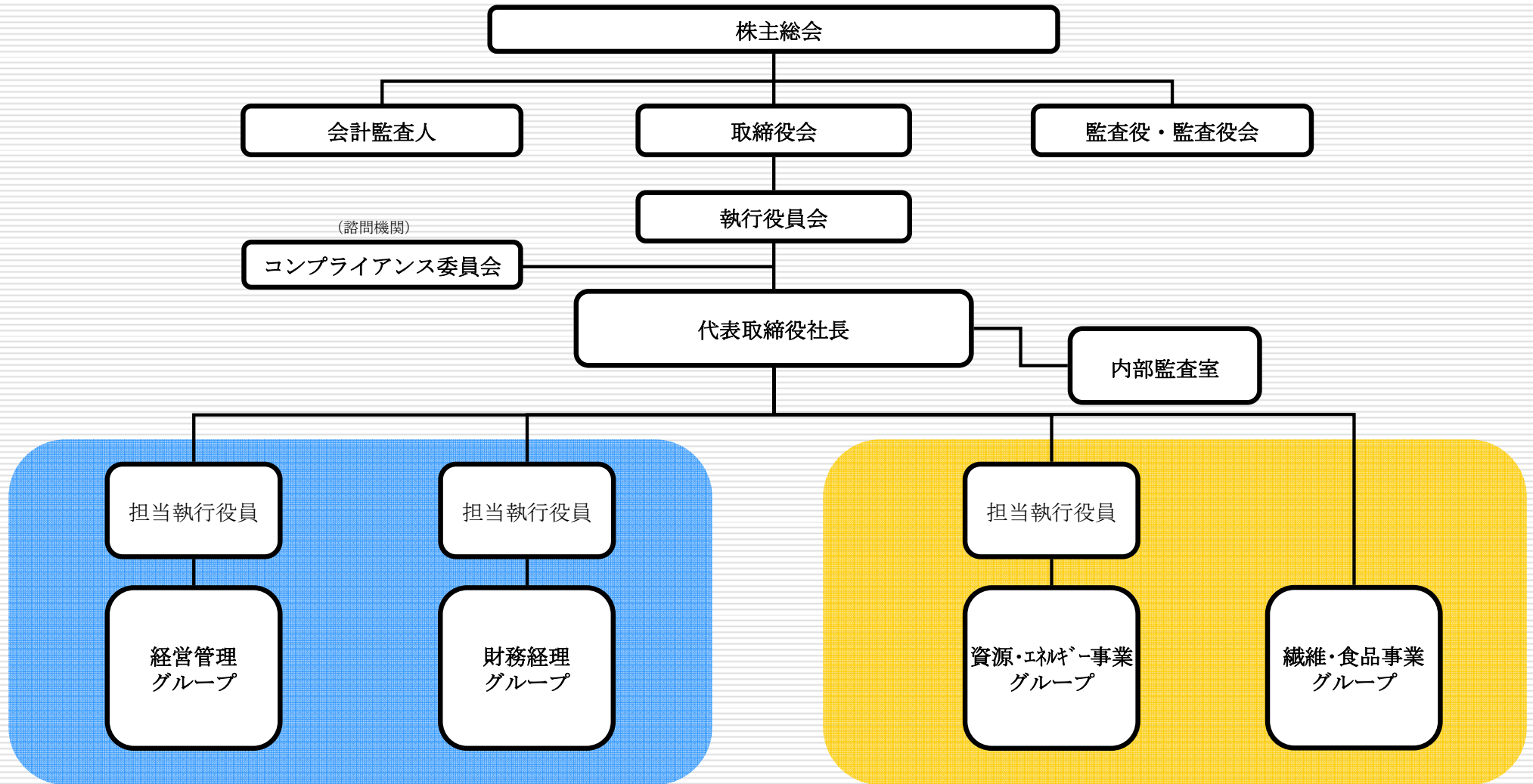
レイク・サプライズ鉱区  
マンピー・プロジェクト  
▪ 試掘を実施中。



IB Daiwa Corporation



# アイビーダイワの組織



2008年3月24日現在

# アイビーダイワの経営課題

- 天然資源開発投資事業の収益黒字化。
  - ロドール社探鉱事業におけるさらなる成功例の確保。同時にリスクのさらなる低減。
    - ハイリスク深層部特化型探鉱戦略の一部見直し(比較的低リスクの浅層部探鉱鉱区の獲得の検討等)。
    - ハイリスク深層部探鉱については、権益比率減その他の手法によりリスクを低減。
  - ポートフォリオ分散と収益確保のための新規投資。
    - 探鉱・開発に比重を置いた現在の石油・ガスポートフォリオの見直し。
    - 石油・ガス以外の天然資源・エネルギー分野への投資。
- 中核事業たる天然資源開発投資事業と事業シナジーのない既存事業(繊維事業・食品事業)の見直し。



今後の事業展開の規模とスピードは、  
今後の **資金調達** の規模とスピードによって決まる。

# アイビーダイワの成長可能性

- アイビーダイワ：新規分野への投資等の推進により成長を目指す。
- ロドール社：カミ鉱区に次ぐ探鉱の成功が鍵。
- リード社：開発鉱区の開発推進による収益増大。一層の新規鉱区獲得により埋蔵量をさらに増加し、企業価値を増大。また、将来アイビーダイワがリード株の一部または全部を譲渡した場合には、譲渡益が見込まれる。
- アダヴェイル社：ウラン探鉱の成功が鍵。

## アイビーダイワは

日本で有数の資源特化型投資会社です。

現在、ロドール社の探鉱事業における現状打破と  
資金面の制約という課題の早急な解決が必要ですが、

一方で、大きな成長可能性を秘めています。

今後とも、中長期的視野でのご支援を賜りますよう、

お願い申し上げます。